

「へへへ…悪いが
動けなくさせてもらったぜ」

ギョ

ゆたっ♡

ム

「いのっ…!!
離しやがれ!」

ギョ

たっ♡



「そんじゃあ
お愉しみと行くか!!」

「なあっ!?
何しやがる!!」



「うっひょお〜♡
デカすぎだろこれ♡
このエロ術師が♡」

「クソ野郎!!
見んじやねえ!!」



「そんじやあ早速…♡」

「んあッ!? や…やめろ!!
触んなあッ!!」



「うへへ…♡指が埋まる
この感触…たまんねえ♡」

ピン

ピン

「んっ…♡ふっ♡そ、そんな
乱暴にツ♡♡揉むなあ…あんっ♡」

おぎゃう!

ぶっ!



「ん〜？甘い声出しやがって…
無理矢理揉まれて感じてんのかあ？」

ドクッ

ドクッ

もぎゅー！

「ふふざけニッ♡な…！
このクソ変態が…ッ！！」

もぎゅー！



「さっさとそろそろ本番と
いくかあ♡」

「なっ!? て、てめえ何出して…
やめろ!! 何する気だ!!」

おっ!!



「デカ乳に挿入っとうっほ♡すげえ乳圧♡」

「くっ…♡あたしのおっぱいで好き勝手しやがって…ツ!!」

ん
ゅ
ぽ
ん♡



「あゝやばい腰止まんね!!
こんなんすぐ出ちまう!!」

「なっ!!出るって...やめろ!!
出すな!出すんじやねえ!!」



「うおおっ!!出るッ!!」

「んああ!?!やめろお!!」



「うっ!!ぐっ!!す、
すげえ出るッ!!なんだ
このエロ乳…ッ!!」

「ち、ちくしょう…ッ
あたしのおっぱいが
汚された…ッ」



「ふう〜♡最高だったぜ
野薔薇ちゃん…まだまだ
楽しませてもらうからな♡」

「クソ野郎…ぜってー
ぶっ殺す…ツ!!」

ぽろぽろ〜













ポン

ポン

おぎゃう!

ポン





































